

「大阪府知事への要望書」について

考古学研究会常任委員会

大阪府知事へ要望書を提出しました！

2月に就任した大阪府の橋下徹知事は、財政事情を理由に府立博物館等について見直し、廃止や売却を検討しています。考古学研究会はこうした事態が招く多くの悪影響を危惧し、下記の要望書を橋下知事へ提出しました。大阪では「大阪府の博物館を支援する会」が結成され、署名活動が始まっています。考古学研究会常任委員会はこの活動に協力することを決定しましたので、会員の皆様も署名の協力をお願いします。

署名用紙は「<http://osakahakubutukan.blog.shinobi.jp/>」からダウンロードできます。

(文化財保存問題委員会)

2008年3月11日

大阪府知事
橋下 徹 様

府立博物館の見直しに関する要望書

考古学研究会 代表委員

新納 泉・和田晴吾

大阪府立の各博物館は、大阪から日本の歴史を考え、府の文化財保護行政を担い、文化新興や教育・生涯学習の拠点施設であり、子どもたちをはじめとする何万人もの利用者から高い評価を得ています。

私ども考古学研究会は、全国・海外に約4500名の会員を有し、多くの府民とともに大阪府立各博物館の積極的で質の高い諸事業に学び、さらなる取り組みを期待していたところです。

ところが、大阪府では財政事情を理由に、府立各博物館の全面的な見直しが検討中であると報道されています。

確かに財政事情という現実には厳しいものですが、今までの府立博物館の事業実績を十分に評価することなく、拙速に見直そうとする動きは、大阪の教育・文化・文化財保護行政を大きく後退させかねません。

博物館施設は、教育基本法に基づく社会教育施設であり、わたしたちが文化的生活を営み、歴史に学びながら未来の世代へ歴史と文化を継承させる重要な責務を負うものです。また、未来を担う子どもたちの教育施設として機能するものです。さらに、歴史に培われた個性豊かな大阪の魅力を全国へ情報発信する大切な機能も持っています。

つきましては、中・長期的展望にたち、府民・国民が望む博物館施策を実現されますよう、知事の高い見識を期待し、下記のとおり要望いたします。

記

- 1 大阪府の博物館施策・文化財保護行政について、中・長期的な展望を提示いただくこと。
- 2 大阪府が全国に誇り、それぞれが個性ある基本構想と設立目的をもつ各博物館の機能を損なうことなく、よりいっそうの行政サービスの実現に努めていただきたいこと。
- 3 府立博物館等の「見直し」は、府民の意見を尊重し、適切な第三者による検討機関を設置し、公平な判断をおこなうこと。